

学科 管理栄養学科	氏名 竹村ひとみ																																			
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>																																				
1 教育の責任																																				
<p>私は家政学部管理栄養学科において、主に1～2年次の専門科目である基礎栄養学を担当している。本学教員として2025年3月で13年が経過した。2025年度は新カリキュラムの開始年度となった。2025年度は単独で担当した科目5科目、オムニバス科目15科目、合計20科目を担当した。右表に2025年度の主な担当科目を挙げた。私が担当する科目は、主に専門基礎分野および専門分野であり、高校までの学修内容をより深め、専門科目へ展開していく基礎的位置付けにある。担当科目の内容については、各科目のシラバスにて示した(添付資料1)。2018～2019年度は専攻主任を、2020～2025年度は学科長を務めた。</p>																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>学科・専攻</th> <th>開講期</th> <th>受講者数 (内再履修)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎栄養学Ⅰ</td> <td>管理栄養</td> <td>1年後期(2025)</td> <td>60(2)</td> <td>卒業必修、管栄、食品衛生、健康運動、教職</td> </tr> <tr> <td>基礎栄養学Ⅱ</td> <td>管理栄養</td> <td>2年前期(2025)</td> <td>66(2)</td> <td>管栄必修、食品衛生、教職</td> </tr> <tr> <td>生物学入門</td> <td>管理栄養</td> <td>1年前期(2025)</td> <td>60(0)</td> <td>卒業必修、管栄、教職</td> </tr> <tr> <td>基礎栄養学実験</td> <td>管理栄養</td> <td>2年後期(2025)</td> <td>64(3)</td> <td>卒業必修、管栄、食品衛生、教職</td> </tr> <tr> <td>基礎キャリア教育</td> <td>管理栄養</td> <td>2年後期(2025)</td> <td>57(0)</td> <td>卒業必修、管栄、教職</td> </tr> <tr> <td>卒業研究</td> <td>管理栄養</td> <td>3,4年通年(2025)</td> <td>5</td> <td>卒業必修、管栄、教職</td> </tr> </tbody> </table>		科目名	学科・専攻	開講期	受講者数 (内再履修)	備考	基礎栄養学Ⅰ	管理栄養	1年後期(2025)	60(2)	卒業必修、管栄、食品衛生、健康運動、教職	基礎栄養学Ⅱ	管理栄養	2年前期(2025)	66(2)	管栄必修、食品衛生、教職	生物学入門	管理栄養	1年前期(2025)	60(0)	卒業必修、管栄、教職	基礎栄養学実験	管理栄養	2年後期(2025)	64(3)	卒業必修、管栄、食品衛生、教職	基礎キャリア教育	管理栄養	2年後期(2025)	57(0)	卒業必修、管栄、教職	卒業研究	管理栄養	3,4年通年(2025)	5	卒業必修、管栄、教職
科目名	学科・専攻	開講期	受講者数 (内再履修)	備考																																
基礎栄養学Ⅰ	管理栄養	1年後期(2025)	60(2)	卒業必修、管栄、食品衛生、健康運動、教職																																
基礎栄養学Ⅱ	管理栄養	2年前期(2025)	66(2)	管栄必修、食品衛生、教職																																
生物学入門	管理栄養	1年前期(2025)	60(0)	卒業必修、管栄、教職																																
基礎栄養学実験	管理栄養	2年後期(2025)	64(3)	卒業必修、管栄、食品衛生、教職																																
基礎キャリア教育	管理栄養	2年後期(2025)	57(0)	卒業必修、管栄、教職																																
卒業研究	管理栄養	3,4年通年(2025)	5	卒業必修、管栄、教職																																
2 教育の理念と目的																																				
<p>本学科は、管理栄養士養成施設として管理栄養士・栄養士教育を行っている。国民の健康問題や少子高齢化社会における様々な課題に対応できる質の高い人材の育成を目指し、教育課程の内容の充実を図ることが求められている。厚生労働省から公表されている「管理栄養士の国家試験出題基準(ガイドライン)」は、学術の進歩や社会的変化に対応できるよう4年毎に改正されている。一方、日本栄養改善学会では、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムが検討・報告されている。これらを踏まえ、管理栄養士に必要な栄養素の機能や体内代謝を中心とした栄養学についての知識修得と理解を目指すことである。さらに、学問としての栄養学に対する知的好奇心を引き出したいと考えている。</p>																																				
3 教育方法																																				
<p>主に1、2年次の科目を担当していることから、大学での基礎的な力を身につけると共にその基盤となる学修習慣を身につけることが重要であると考え。そこで、本学で導入しているPCRシート(添付資料2)を活用した予</p>																																				

復習の促しと毎授業での小テスト（添付資料 3）を実施している。小テストは前回授業の内容に関する知識を確認するものである。授業内容が理解できているか、また復習により知識が定着しているかを各自が毎回確認し、コツコツ学ぶ習慣と栄養学に関する基礎知識を身につけることを重視している。2020 年度は非対面型の授業が中心であったため、Google forms を活用した小テスト、授業はオンデマンド型ビデオ教材や PDF 資料を投稿、授業中は Google meet を活用し、一部分ではあるが双方向型の授業展開を実施した。2021 年度以降は全面対面授業の中で、Google Classroom を活用した小テストと、事後学修に役立つ授業スライド（PDF 資料）の配信を行っている。

4 授業改善の活動

授業評価アンケート（添付資料 4）を基に、毎年度授業改善（添付資料 5）を図っている。基礎栄養学に関して、2017 年度までは単元毎（4~5 回に 1 回程度）に確認テストを実施していたが、2018 年度より毎授業開始時に前回の授業内容に関する小テストに切り替えた。確認テストは教員が採点し返却していたが、小テストは解答もしくは解答例を示し、学生間で採点する形式に変更したことにより、授業内で学生からの質問や問題提起に対応できるようになった。採点後の小テストには、解答以外の解説メモを書き込んでいる学生も見られた。毎授業の小テスト導入は、テスト実施直後に解答や解説を確認でき、特定の学生の質問をクラス全体で共有することで内容の理解に繋がったと考える。また、2018 年度より PCR シートが導入され、毎回の自習が翌週の小テストの得点や期末試験に結び付くことを実感し、習慣化されている。2020 年度は Google forms による小テストを導入したところ、自己学修ツールとして活用できることが分かり、2021 年度以降は Google forms による小テストを実施している。

5 学生の授業評価

2025 年度の授業評価は添付資料の通りである（添付資料 4）。非対面型が中心であった 2020 年度に比し、2021 年度以降は全面対面で実施したこともあり、評価は概ね良好であった。授業では、5 択問題のペアワークの時間を充分取り、相互に理解し合う環境を作った。その振り返りをより丁寧に行った。質問や相談がしやすい環境整備を今後も心掛けていくことが重要であると感じた。PCR シートの予復習部分は、毎週の授業で必ず押さえるべき重要ポイントに焦点を絞った設問項目を設定するように心がけた。授業終了時にその授業に関連する国家試験の過去問題を解く時間を加え、解答確認と補足説明をしている。2025 年度後期の基礎栄養学 I では、小テストの中で重要かつ正解率が低い問題を再度取り上げ、ワークと解説の補足を充分に行った。

6 学生の学修成果

基礎栄養学 II の期末試験成績を 2018 年度と比較すると、2019 年度は平均点で 6.4%、再履修学生を除くと 7.7% 高かった。再試験対象学生の割合は 2% 低下した。対象学生が異なるため一概には言えないが、PCR シート、小テストの改善が少なからず成果に繋がっていると考えている。2020 年度は条件が異なる課題提出型試験であったため単純比較はできない。2021 年度の対面型本試験では受講生の約半数が F 評価であったが、2022 年度は本試験の S と A 評価の割合が上昇した一方、F 評価の割合は僅かな改善に留まった。2023 年度は S と A の評価割合に変化はみられなかったが、C の割合が低下し B の割合が増えた結果、B 以上が 6 割を超えた。2024、2025 年度は B の割合が減り A の割合が大幅に増えた。今後も授業内容の理解度を上げる工夫、出題要点を明確にするなど改善に努めたい。

7 授業科目に関連した教材開発

2025 年度は、授業スライド、PCR シート、小テスト、一部 NotebookLM を活用した動画教材を活用しながら授業展開を行った。質問があった箇所や学生に伝わりにくかった部分は、その都度修正・補足しフィードバックしている。特に、提示した 5 択問題にペアワークを取り入れ、振り返りを行った。Google Classroom から授業スライドや小テストを配信することで自己学修ツールとして活用しやすくなった。指定テキストだけでは説明が不足する内容は、複数の教材を活用し、授業 PP や PCR シートに落とし込んでいる。今後は小テストの振り返りがしやすいよう、解答が確認できるように設定し、必要に応じて解説を加えるようにしていく。

8 指導力向上のための取り組み

学外活動として、2019 年 5 月には全国栄養士養成施設協会主催の研修会に参加した（添付資料 6）。「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラム」「管理栄養士国家試験出題基準」「食事摂取基準 2020」に関する最新情報の収集、他大学との意見交換を行った。学内では、毎年 9、3 月に開催される FD 研修会に

参加し、教育改善のための事例報告や課題共有を行い、様々な知見を得ている。

9 今後の目標

基礎栄養学をはじめとする基礎的科目は、高校での履修・修得状況によって得手不得手が生じやすく、理解度に影響が現れる。高校での修得状況を踏まえつつ、専門の入り口として興味を持って学修に臨めるよう、授業展開やPCRシートに工夫を凝らしていきたい。

10 添付資料

資料1「2025年度シラバス」 資料2「2025年度PCRシート」 資料3「2025年度小テスト」 資料4「2025年度授業評価アンケート集計結果」 資料5「2025年度リフレクションペーパー」 資料6「全国栄養士養成施設協会研修会次第」